



ROTARY CLUB OF NAGOYA MIZUHO

WEEKLY REPORT

第1897回例会

～経済と地域社会の発展・米山月間～
クラブテーマ：「熱田の杜・友愛・気品」

2019年10月31日(木) 晴 第16回

司 会：田中 宏 会場委員長
斉 唱：「我等の生業」
ゲ ス ト：岡内 彩さん
ビ ジ タ ー：名古屋和合RC会長エレクト 田中 正次さん
名古屋和合RC副幹事 山本 秀樹さん
大垣RC 伊藤 康裕さん

会長挨拶

関谷俊征会長

皆さんこんにちは。早いもので10月が今日で終わり今年も残す所2ヶ月です。県も市もクールビズの最終日ですがさすがに朝晩は涼しくなりました。

世の中のニュースは絶えませんが驚いたニュースの1つに、東京オリンピックのマラソン・競歩の開催地の変更があります。

IOCの東京から札幌への変更理由はご案内の通り、高温の中での競技開催が心配という事です。この変更(案)の引き金は、9月末に開催されたカタールのドーハでの世界陸上において、完走出来ない選手が40人近くに及んだという事です。IOCは選手の安全確保を第一と言っていますが、この変更には賛否両論、多くの意見があります。五輪の競技会場は「IOCと国際競技連盟との間で決定する」とのルールがありますから、ほぼ札幌開催が決定のような気がしますが、追加費用の負担であるとか警備体制を含む開催準備の課題も多いようです。IOC、開催地東京を含む関係者で多くの議論を呼ぶと思いますが、オリンピックをやります!と、都と国が世界中に約束した訳ですから実施に向けた決定を早くして欲しいと思います。

私見ですが今回の東京オリンピックの問題の原点に多方面からすでに指摘がありますが誘致の際に「温暖で理想的な気候」とPRした事があると思います。

温暖で理想的な気候であれば、問題なくマラソン競技が開催できなければなりません。日本、東京の8月が温暖であると思っている国民が一人でもいるでしょうか?殆んどの人が8月は酷暑だという認識だと思います。

何故8月にオリンピックを開催する必要があるのでしょうか?

この辺の話になりますと長くなりますので止めますが今回の誘致、そしてオリンピックの開催の意義、目的に関して、国として終了後にしっかり振り返る必要があると思います。また、この過熱した商業主義のオリンピック開催についても世界中で議論する時期のような気がします。

しかしながら先程もお話した様に、この東京オリンピックは、開催したいと手を上げて、開催しますと世界中にした約束です。開催までには、多くの問題があると思いますが、日本人の英知と関係者の熱意で、是非、成功に向けて頑張りたいと思います。



出席報告

本多 誠之出席委員

会員70名 出席50名 (出席計算人数52名)

出席率 82.0% 10月24日は補填により85.5%

ニコボックス

本多 誠之ニコボックス委員

- ・名古屋和合RCの会長エレクトの田中と副幹事の山本です。本日はどうぞよろしくお願ひ致します。
田中 正次さん 山本 秀樹さん
- ・大垣RCの伊藤と申します。初めて参加させていただきます。よろしくお願ひします。
伊藤 康裕さん
- ・明日11月1日は結婚記念日です。何年か忘れまして。
松波 恒彦さん
- ・先日は妻の誕生日にお花を頂き誠にありがとうございました。
- ・10/24～25にかけて業界団体の青年部の全国大会を名古屋で開催させていただきました。主催者、責任者の任務も終わり、ホッとしています。
田中 宏さん
- ・千秋宮司さん先日は大変ご配慮頂き誠に有難うございました。
野崎 洋二さん
- ・昨日は御園座にて「ヤマトタケルノミコトと熱田神宮」を拝見させていただきました。素晴らしかったです。
萩原 孝則さん
- ・昨日は御園座にて「ヤマトタケルノミコトと熱田神宮」を観させていただきました。千秋さんの御挨拶、素晴らしかったです。
- ・森さんカボチャいただきます。
鈴木 淑久さん
- ・カボチャありがとうございました。
安井 友康さん
- ・森さん、カボチャを頂きました。ありがとうございました。
関谷 俊征さん
- ・「八千草薫」さん追悼、思い出を、ありがとうございました。
森 裕之さん
- ・名古屋とロサンゼルス、姉妹友好都市60周年でアメリカで生菓子を作ってきました。
- ・先日は野球の試合に欠席で申し訳ありませんでした。
花井芳太郎さん
- ・先日は鈴木実さん、渡邊将之さん、誕生日のお祝いありがとうございました。
新見 光治さん

幹事報告

鈴木 淑久幹事

- ・次週11月7日(木)第3回クラブアッセンブリー、第5回理事会がビルト名古屋4階梅の間にて行います。
- ・11月9日(土)10(日)はホテルキャッスルにて地区大会が行われます。関係者の方へのメールボックスに地図を入れましたのでご確認ください。詳細の確認は事務局までお願ひします。
- ・名札とプログラムについては当日会場にて幹事よりお渡しします。(受付9時30分～青少年フォーラムご参加の梅村さん・鈴木健司さんは事前にお渡しします。なお特別出席者は名札・胸花を当日渡されますので受付へお願ひします。)※伊藤 豪さん、近藤雄亮夫妻
- ・次々週11月14日(木)R規定により休会となります。
- ・11月2日(土)熱田RAC例会となります。担当は原田さん、星野さんです。どうぞよろしくお願ひ致します。

テーマ:「明日から実践できる トヨタ式ワンポイント講座」



弁護士の星野先生よりご縁をいただき、お話をさせていただきます株式会社 OJT ソリューションズの岡内彩と申します。本日は短い時間ではありますが、皆さんの日々のお仕事や生活にお役立ていただけるノウハウをお伝えできればと思います。

まず、弊社についてご紹介させていただきます。弊社は、日本の産業基盤の再構築に貢献することを目指し、2002年にトヨタ自動車とリクルートによって設立されました。トヨタ生産方式をベースにした現場指導・人材育成を行っており、国内製造業を中心に430社・1200件を超えるサービスを導入いただいております。昨今は、中国に加えてアメリカやベトナムなどの海外、介護・飲食業などの非製造業や製造業の間接部門などにもお客様が広がっています。指導にあたるのは、全員がトヨタ出身のトレーナー。年齢は57～70代前半で、現役時代は100～300人の部下を持っていた現場改善と人材育成のエキスパートたちです。トヨタでの経験を社会に役立てたいという想いで自らの意志で弊社に入社し、現場でメンバーと向き合っています。「メンバー1人1人の成長が、何よりも嬉しい」「幅広い業種でトヨタ時代の経験を生かせることが楽しい」とトレーナーは語ります。そのような会社で私は、トレーナーへの取材を通じて15冊・80万部超の書籍を刊行し、幅広くトヨタ式を世の中にお伝えしてきました。また、私生活ではトヨタ式を応用して二児を育てつつ大学院にも通学し、仕事・家庭・学業の3足の草鞋をはいていました。そのあたりも、本日は具体例としてご紹介してまいります。

次に、トヨタ式のエッセンスを簡単にご紹介します。次章での具体例をご理解いただく下地として簡単に、トヨタ式は、二本柱とその土台で成り立っています。二本柱とは、必要な時に必要な物を必要な量だけ作るという「ジャストインタイム」と、不良が発生したらその場で止まるという「自動化」です。皆さんもご存じであろうこの二本柱ですが、成果は出そうだが実現は難しいと思われたことはないでしょうか。鍵となるのは、この2つが成立するための土台、「標準化」と「見える化」です。平たい言葉でいうと、目の前の現状の良し悪しを判断できるものさしが標準で、その良し悪しが誰にでも分かりやすい状態になっていることが見える化です。良し悪しがわからなければ、現状をより良くするための改善はできません。標準という、「一度決めたら変えられないもの」「自分で考えない人になる」というマイナスのイメージをお持ちかもしれませんが、標準は改善のスタートとなるもの。現状が悪い(異常)と分かれば、現状を標準に近づけるために改善をします。あるいは、現状が良い(正常)であることが分かれば、標準自体をバージョンアップさせることもあるのです。このように、現状の問題を常に改善する状態にしておくことで、現場にとって理想的な状態ともいえるジャストインタイムと自動化が成立するのです。

さて、ここからは標準化と見える化の具体的な手法として、「5S」を取り上げます。本日は時間も限られているので、そのうちの2S「整理」「整頓」をご紹介します。具体的内容のご紹介に入る前に、改善活動における5Sの位置づけについてのお話です。弊社がお客様の現場を指導する際にも、多くの場合、5Sから取り組みを始めます。理由は2つ。1つ目は、前述したように、トヨタ式の土台となる「標準化と見える化」の実現に近づくためです。そしてもう1つは、改善活動の楽しさを当事者たちに実感してもらうためです。会社から改善活動を命じられても、主体的に動くのは限られた人だけ。多くは、「余計な仕事が増えた」「自分たちには何のメリットもない」と後ろ向きです。5Sは、彼らに前向きになってもらうには、格好の手法・機会なのです。5Sでは、実施前と実施後に現場の様子が大きく変わるので、成果が実感しやすい。また、捨てる基準を決めたり、実際に捨てる作業をする中で、周囲とかかわる機会も増えます。担当業務を淡々とするばかりで周囲と連携する機会がない人も多く、人と連携して一つのことを進めることに新鮮な楽しみを感じるようです。さらに、仕事をしやすい環境になるので、担当業務をスムーズに進められる効果もあります。これらを通じて、自らの頑張りが成果となる、

周囲と連携が生まれる、自らの業務もスムーズになるという、改善の楽しさを実感することができるのです。それでは、具体的な手法をお伝えします。

1つ目は「整理」。いるものといらないものを分けて、いらぬものは即刻処分することです。ここでは、着実に捨てること、その状態を維持することが重要です。前者については、勿体ないという気持ちから生まれる捨てることへの躊躇を、いかに断ち切るかがポイント。だれもが判断しやすいように使用頻度を判断軸としたり、実際に処分する際には担当者と期限を明示した「赤札」を活用し、捨てることから逃げられないような工夫もします。ただ、実際には即刻処分することが難しいケースもあるので、期間限定で一時置きしておくこともあります。

次に、後者の維持については、発注点を明確にすることが重要です。人は心配性な生き物なので、どうしても必要な量よりも多い量を手元に確保しようとし、物が足りなくて叱られることはあっても、持ちすぎて叱られることはないということも影響しているかもしれません。そうすると、どんどん物が増えて余分な保管場所が必要になったり、気が付いたら使わなくなった・古くなっていった等の理由で廃棄することになったりします。また、担当者による匙加減で発注する場合には、経験の多寡や問題意識の度合いによって発注量やタイミングが異なるので、物が多すぎるだけでなく足りないというケースも出てしまう可能性があります。それらを防止するしくみとして有効なのが、発注点です。弊社では、コピー用紙の発注にこのような「かんばん」を活用し、総務担当者が見回りをしなくても必要なタイミングで発注依頼がくるようにしています。また、私の家庭ではこのような買い物リストを発注点としており、必要なものがモレなく楽に購入できるようにしています。

2つ目は「整頓」、いるものを使いやすいように置き場を決めて明示すること、です。人の動きのうち、3割はムダがあるといわれています。この割合を極力低くするのが、整頓でやるべき工夫です。1つ目の工夫は、動作経済。手の動きや目の動きに配慮したものの置き方をすることで、スムーズに取り出せるようにします。弊社の倉庫や備品ラックでも、実際にこのような工夫をすることで、5Sが乱れないようにしています。しくみを定着させる上ではムリなく運用できることも重要で、その観点からも動作経済は配慮すべき観点です。2つ目の工夫は、三定。三定とは、定位置(決まった場所に)・定品(決まったものを)・定量(決まった量だけ)置くための手法です。実際には、置き場を示すための区画線や、置くものの形を象った姿置きなどにより、使った人が元に戻さずにはいられない状態をつくり出します。先日、トヨタ自動車の現場見学をした際には、ファイルの背表紙に富士山の写真を張る工夫をしていました。ファイルがない時や、戻す位置が違っていている時には、すぐに気づけるための現場発案でのユーモアを交えた工夫です。また、我が家ではこどもと一緒に区画線と姿置きをつくりました。丁度パズルに熱中していた時期だったので、おもちゃの姿置きを「パズルみたい!」と喜び、片付けることを楽しんでやっていました。このように、当事者たちが楽しんで改善案を考え実践していくことも、しくみ定着の上では重要なポイントです。

5Sの目的は、きれいにすることではありません。5Sを通じて、問題を視える状態をつくり仕事の質をあげていくこと、関係者が前向きによりよい環境づくりに取り組む状態をつくること、真の目的です。ぜひ、皆さんの職場でも、実践してみてください。

例会のご案内

- 今週の卓話 11月7日(木)
 テーマ: ロータリー財団の多様性について
 卓話者: 藤野 直子さん
 役職: 地区補助金委員会副委員長(名古屋名東RC所属)
- 次週 11月14日(木) R規定により休会
- 次々週行事 11月21日(木) ボジョレー例会
 時間: 18時~20時
 場所: イーオリエンタルバンケット